

中川一政の陶芸

2025
9/6(土)～11/30(日)

茶道具の魅力

(左上から)《唐津皮糠茶碗-久方-》1983年頃、《織部茶入》(未詳)、《兎香台》1981年、《唐津兎文平鉢-雪兔-》1980年、《茶碗》(未詳)、《織部井桁蓋置》1981年、《唐津刷毛目朝顔文水指》1980年、《信楽花入》1983年頃、《唐津手付花入》1983年頃、《唐津徳利-ぐでんぐでん-》1983年、全て中川一政作品

中川一政(1893-1991、文化勲章受章者)は、97年の生涯に絵画だけでなくとどまらず書や陶芸、文芸など多岐にわたる創作活動を展開しました。陶芸は70歳代半ばを過ぎた頃からの仕事です。

陶印制作から始まった陶芸は、茶碗や陶板画、そして茶陶へと広がりを見せます。茶道具を作るうちに、次第に「お茶」への興味が高じて、90歳代には幾度も茶事を催すようになりました。床の間に自作の書画を掛け、自身の制作した茶道具を用いて人をもてなし、自らも愉しんだのです。制作は、茶碗だけでなく、花入や水指、茶入、そして風炉や釜にまで及びます。いずれも雄々しく、ときに型破りではありますが、そこに中川が希求した稽古事とは一線を画す「婆沙羅(ばさら)の茶」への眼差しが感じられます。

本展では、絵画や書作品と併せて、こうした茶道具を中心に展覧し、とらわれのない境地で遊ぶが如くの中川一政の陶芸の世界を紹介します。

開館時間 9:00～17:00

休館日 月曜日(ただし9/15、10/13、11/3、11/24は開館)、9/16、10/14、11/4、11/25

入館料 一般200円 高校生100円(20名以上の団体は半額)

中学生以下および障がい者手帳をご提示の方とその介護者1名は無料

白山市立松任中川一政記念美術館



〒924-0888 石川県白山市旭町 61-1 電話 076-275-7532 (北陸新幹線金沢駅から普通列車で10分 松任駅南口横)

Closed: on Mondays. Access: 1 min. on foot from Matto Sta. South Exit. (10 min. on Local line from JR Kanazawa Station to Matto Station.)

